留学生センター主催　講演会

「香港日本語教育の現状と課題」
講師　梁　安玉先生

（香港日本語教育研究会　会長）

2014 年 1 月 29 日（水）、留学生センターに於いて、香港日本語教育研究会会長の梁安玉先生をお迎えして、「香港日本語教育現状と課題」をテーマとした講演会を実施いたしました。当日は、日本語教育に携わっている本学の現職教師、大学院生および関心を持っている学外の方々が集まり、梁先生と楽しく交流すると同時に、香港の多言語文化社会および日本語教育の現状などへの理解を深めることができました。以下は、梁先生のご講演の内容の一部をまとめたものです。

2009 年度から、「両文三語」“Bi-literacy and Tri-lingualism” [中文・英文・外国語]という言語政策のもとで、新しく実施された高等学校の教程には外国語学習が選択科目として取り入れられている。現在、香港の全人口の 0.2%が日本人であるのに対して、日本語話者が香港の人口の 1.5%を占めている。つまり、香港の全人口（7,071,576 人）の 1.3%の約 92,000 人が日本語の非母語話者であると考えられる。21 世紀に入って、大学のコミュニティーカレッジの 2 年間の準学士課程で実用向けの日本語コースが次々と開講された。2013 年の日本語能力試験への応募者数は、12,546 名にも達している。香港の日本語学習者の日本語学習動機として、「日本の歌、漫画、アニメ、ファッション、ゲームなどへの興味」「学習リソースの多様化」「香港と日本との近い距離」「学校制度の改革（2009 年の新しい高校の学習内容）」などが挙げられる。2003 年の調査結果によると香港の小・中学校における日本語の学習者数は 1,600 名を超えている。以来、年少の学習者が年々増加しており、2012 年の国際交流基金の調査結果によると 2,546 名にのぼるという。

最後に、グローバル化の流れの中で、梁先生は今後の日本語教育の課題として、次の３つのキーワード「Learn local：生きている教材」「Apply global：国際交流、グローバル人材」「Sustainability：持続力」を提言されました。

講演会の様子

梁先生（右２）とセンター長（左２）、センター教員との懇談